

# 防災科学教室、今年もナダレンジャーでスタート

千葉・市川市立大和田小で今年度第1回



ベルマーク財団の教育応援隊のひとつ「防災科学教室」が今年も始まり、9月14日、千葉県の市川市立大和田小学校(青山了司校長、児童509人)で最初の教室が開かれました。防災科学技術研究所との共催で、今年度は全国16校で予定しています。

講師は防災科研の納口恭明(のうぐち・やすあき)研究員。「Dr.ナダレンジャー」として年に200回以上の出前授業をしています。児童や保護者ら155人を前に、納口さんは金のカツラにメガネ、地下足袋姿で登場しました。でも、いつものヒゲがありません。準備運動と称して皿回しを披露した後、「慣れたと思うので、ナダレンジャーに変身していいですか?」と緑のヒゲを装着。子どもたちは大笑い。つかみは万全です。

強い風が真っすぐに飛んでくる「突風マシン」や、雪崩が迫る様子を体感できる「ナダレンジャーマイナス1



号」、地盤の液状化を再現する「エッキー」など、様々な種類の道具を使って災害のメカニズムを伝えます。「災害は、巨大だから怖いんだよ。でも、ミニチュアになると、災害は全部おもちゃになります」

高さの違うビルに見立てた3つのスポンジで揺れ方の違いを見たあとは、発泡スチロール製のブロックを高く積み上げての実験。児童がダンゴムシのように身を丸くしてスタンバイする中、ゆっくりとしたリズムで台車を揺らすと、約10秒後にブロックは見事、崩れました。「本当に起こったら大変なんだよ。地震の時はブロック塀のそばに寄っちゃだめ」

授業が終わると、ナダレンジャーは冷静な研究者である納口さんに戻ります。PTAの役員らへのあいさつで、この日の授業の趣旨を、こんな言葉で語りました。「科学の所作を知り、災害と向き合うことです」



⑥「ゆらゆら3兄弟」も登場  
⑦「マイナス1号」はさらに巨大  
⑧大きくなる棒に「うわーっ!」

## Dr.ナダレンジャーがテレビ出演

防災科学教室や理科実験教室でおなじみの「Dr.ナダレンジャー」こと、防災科学技術研究所の研究員・納口恭明さんへのインタビューが、民放テレビで全国放送されました。9月17日のテレビ朝日系「羽鳥慎一モーニングショー」です。羽鳥氏が茨城県つくば市の防災科研を訪問して話を聞きました。

豪雪災害の現地調査を通じて「自然災害のメカニズムは研究者だけのものにしてはいけない」と考え

た納口さんは、知識を共有していくために、試行錯誤して今のナダレンジャーのサイエンスショーを作り上げたそうです。ショーの最後はいつも素顔を明かし、「現実には起こったら怖い災害であることを忘れないで」と呼びかけます。

人生で成功するために必要なことは?と問われた納口さんは「好奇心を持つこと」と即答。それが現象をより深く理解するのに重要だと話しました。



## 目が不自由でも、自分の身を守ろう!

特別支援学校で初、塙保己一学園で防災科学教室

埼玉県川越市にある塙(はなわ)保己一(ほきいち)学園で9月27日、防災科学教室が開かれました。幼稚部から高等部までである県立の特別支援学校で、目の不自由な児童・生徒たちが通っています。特別支援学校で防災教室が開かれるのは初めてです。



講師は防災科研の客員研究員で元香川県立盲学校教諭の花崎哲司さん。参加したのは小学部~高等部の約60人。まず様々な音を聞かせて、何の音が答えさせていきます。続いて木片を握らせ、にお

いの確認も。「災害の前には、水の流れる音、石のぶつかる音が聞こえ、土のにおい、木のおいなどがします」と花崎さん。

続いて、地震のときにとる「ダンゴムシ」のポーズの練習。ピーナッツを配って、指でその形のイメージを作ります。座った状態から体を前に傾けて丸め、頭を下げ、手は首の後ろに。「地震のときは頭を守るのが大切です」

花崎さんは、「助けて」と人に言える勇氣を持つことの大切さをみんなに語ります。その一方で、「目が見える人でも苦手なことがある。いざというとき、君たちが手助けしたりアドバイスすることができるかも知れません」と話しました。

その後は体験タイム。泥水が入ったビニールプールに裸足で入ると、足には砂利が当たります。災害時に避難する感覚を養うのです。また50%ほどに土を盛っ

た山にミニチュアの家を置き、上から水をかけて土砂崩れのミニ版を発生させ、手でさわって確かめます。水をかけると土のにおいもしてきます。「埋まったのは家の山側?谷側?」「山の方!」「1階と2階、どちらが安全?」「2階!」



授業の終わりに先生に感想を聞かれた子どもたちは、「災害が起きたらどう行動するかの勉強になりました」「大雨が降るだけで家が土砂に埋まるのには驚きま

した」「大切なことを学べてありがとうございました」と口々に語りました。それを受けて柳澤正則校長は「今日の経験を生かして、みんな安全に身を守れるようにしてくださいね」と話しました。

授業を終えた花崎さんは「見えにくさのために自分で自分の身を守れないというのは思い込み。体験してみれば、意外とできる、となる。先生方もよく協力してくれた。学校の防災力を担うのは先生ですから」と振り返りました。

